

“真田・紀州九度山”まちづくり

現状と課題

- ◆観光客18万8千人(H19観光客動態調査)のほとんどは、慈尊院から高野山への世界遺産に集中
- ◆高野山への通過点ではなく、地域独自の魅力を活かした「九度山 まちなか」の活性化が課題

歴史ブームにも着目し、“真田”をキーワードにした町おこし

○○○

関ヶ原合戦後、真田昌幸、幸村父子が九度山に隠せい

【事業主体】

九度山町まちなか活性化協議会
(財)九度山町柿の里振興公社
九度山町

【活用事業】

わがまち元気プロジェクト支援事業
緊急雇用対策事業
ふるさと雇用対策事業
柿の里振興公社事業

【全体事業費】

28,050千円

町17,050千円、町公社6,000千円

取組の4本柱(H21～H23)

- (1)「真田・紀州九度山」物語づくり [まちなか活性化協議会] 1,086千円
○真田昌幸・幸村父子にまつわる真田物語の作成と語り部の養成
- (2)「真田」を体感できる街並みづくり [まちなか活性化協議会、町(住民グループ)] 7,516千円
○大阪夏の陣で勇名を馳せた「真田の赤甲冑」づくりと展示 等
○真田土産の販売や軽食の提供による、まちなか観光拠点(真田いこい茶屋)の充実
- (3)「真田・紀州九度山」特産品づくり [公社、町] 17,872千円
○信州真田(上田市)仕込みの“紀州真田そば”店舗の設置・運営
○真田十勇士や六文銭をあしらった真田土産や柿加工品の開発
- (4)「真田・紀州九度山」観光商品づくり [まちなか活性化協議会] 1,576千円
○真田のまちを訪れる旅行商品造成へのPR

真田いこい茶屋



真田土産



紀州真田そば(イメージ)



目 標

「真田」ブランドを活用した九度山オンリーワン観光の創出

- ①H24年度九度山町まちなかへの観光客5万人増
- ②紀州真田そばと特産品による1億円産業の創出